

Itk::Geo3D Notes

野田 五十樹

2024/10/04 | 初期バージョン

1 class LineSegment

1.1 closestFractionPairFrom()

3次元 (以上) の2つの線分の最近点を求める。求めるものは、各線分上の分率とする。

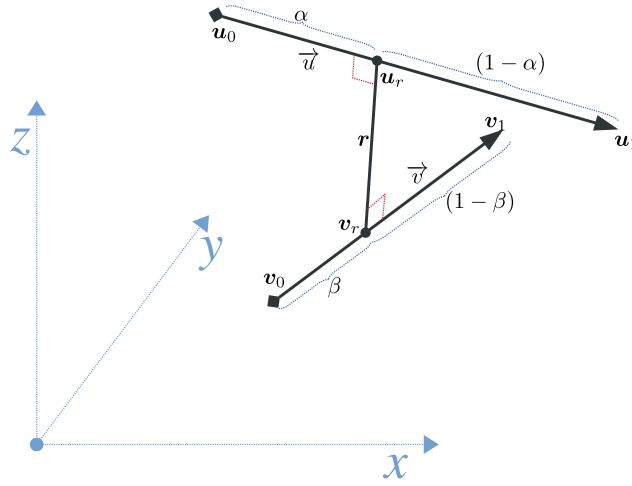


図 1: 2つの線分の最近距離

まず、2つの線分 \mathbf{u}, \mathbf{v} を考える (図 1)。

$$\mathbf{u} = \langle \mathbf{u}_0, \mathbf{u}_1 \rangle \quad (1)$$

$$\mathbf{v} = \langle \mathbf{v}_0, \mathbf{v}_1 \rangle \quad (2)$$

ただし、 $\langle \mathbf{u}_0, \mathbf{u}_1 \rangle$ は、位置 \mathbf{u}_0 から位置 \mathbf{u}_1 へ位置への線分を表す。

線分 \mathbf{u}, \mathbf{v} 上の任意の点 $\mathbf{u}_r, \mathbf{v}_r$ は、その分率を各々 α, β として、次のように表される。

$$\mathbf{u}_r = (1 - \alpha)\mathbf{u}_0 + \alpha\mathbf{u}_1 \quad (3)$$

$$\mathbf{v}_r = (1 - \beta)\mathbf{v}_0 + \beta\mathbf{v}_1 \quad (4)$$

ここで、 $\mathbf{u}_r, \mathbf{v}_r$ を両端とする線分 \mathbf{r} を考える。

$$\mathbf{r} = \langle \mathbf{u}_r, \mathbf{v}_r \rangle \quad (5)$$

また、この線分方向 \mathbf{r}_d は

$$\mathbf{r}_d = \mathbf{v}_r - \mathbf{u}_r \quad (6)$$

$$= -\alpha(\mathbf{u}_1 - \mathbf{u}_0) + \beta(\mathbf{v}_1 - \mathbf{v}_0) + (\mathbf{v}_0 - \mathbf{u}_0) \quad (7)$$

線分 r が u, v の最近点を結ぶ線分とすると、直線 r と 2 つの直線 u, v は互いに直交する。¹よって、以下の等式が成立する。

$$(v_r - u_r)(u_1 - u_0) = 0 \quad (8)$$

$$(v_r - u_r)(v_1 - v_0) = 0 \quad (9)$$

すなわち、

$$-\alpha(u_1 - u_0)^2 + \beta(u_1 - u_0)(v_1 - v_0) + (v_0 - u_0)(u_1 - u_0) = 0 \quad (10)$$

$$-\alpha(u_1 - u_0)(v_1 - v_0) + \beta(v_1 - v_0)^2 + (v_0 - u_0)(v_1 - v_0) = 0 \quad (11)$$

ここで、以下の置き換えを行う。

$$a = (u_1 - u_0)^2 \quad (12)$$

$$b = (v_1 - v_0)^2 \quad (13)$$

$$c = (u_1 - u_0)(v_1 - v_0) \quad (14)$$

$$g = (v_0 - u_0)(u_1 - u_0) \quad (15)$$

$$h = (v_0 - u_0)(v_1 - v_0) \quad (16)$$

これにより、(10),(11) は以下のベクトル式で書ける。

$$\begin{bmatrix} -a & c \\ -c & b \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \alpha \\ \beta \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -g \\ -h \end{bmatrix} \quad (17)$$

$$\begin{bmatrix} \alpha \\ \beta \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} -a & c \\ -c & b \end{bmatrix}^{-1} \begin{bmatrix} -g \\ -h \end{bmatrix} \quad (18)$$

$$= \frac{-1}{\det} \begin{bmatrix} b & -c \\ c & -a \end{bmatrix} \begin{bmatrix} g \\ h \end{bmatrix} \quad (19)$$

ただし、 \det は上記行列の行列式の値であり、以下の通り。

$$\det = c^2 - ab \quad (20)$$

ここで求まった α, β が区間 $[0, 1]$ の間であれば、頂点 u_r, v_r は各々、線分 u, v 上にある。それ以外の場合は、直前 u, v 上となる。

一方、行列式の値 \det が 0 となるのは、

$$c^2 - ab = ((u_1 - u_0)(v_1 - v_0))^2 - (u_1 - u_0)^2(v_1 - v_0)^2 = 0 \quad (21)$$

$$((u_1 - u_0)(v_1 - v_0))^2 = (u_1 - u_0)^2(v_1 - v_0)^2 \quad (22)$$

$$(u_1 - u_0)(v_1 - v_0) = |u_1 - u_0| |v_1 - v_0| \quad (23)$$

これは、線分 u, v が並行の場合である。この場合は、 $\alpha = \beta = 0$ としてよい。²

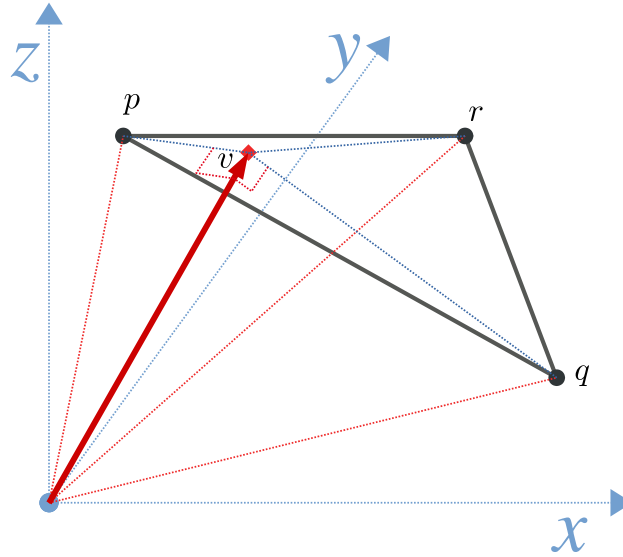


図 2: 三角形と 垂線 (法線)

2 class Triangle

2.1 orthogonalDirection()

3次元 (以上) の空間にある 3 点 p, q, r で定まる平面 S の方向 s を考える。ただし、平面 S の方向とは、平面に対して垂直な方向とする。また、その平面 S は原点 $[0, 0, 0]$ を含まないものとする。³

平面 S 上の点 v は以下の式で表される。

$$v = \alpha p + \beta q + (1 - \alpha - \beta)r \quad (24)$$

ただし、 α, β は実数とする。なお、 α, β が以下の範囲の時、 v は三角形 $\langle p, q, r \rangle$ の内部にある。

$$0 < \alpha < 1 \quad (25)$$

$$0 < \beta < 1 \quad (26)$$

$$0 < (1 - \alpha - \beta) < 1 \quad (27)$$

ここで、ベクトル v が平面 S に垂直であるとする。この場合、以下が成立する。

$$v(p - r) = 0 \quad (28)$$

$$v(q - r) = 0 \quad (29)$$

つまり、

$$\alpha(p - r)^2 + \beta(q - r)(p - r) + r(p - r) = 0 \quad (30)$$

$$\alpha(p - r)(q - r) + \beta(p - r)^2 + r(q - r) = 0 \quad (31)$$

¹本来、線分は両端をはみ出さないが、ここでは話を簡単にするため、直線で考える。

²正確には、線分の方角により一方を 1 にする必要がある。

³原点を含む場合は、座標系全体を平行移動して原点を含まないようにする。

ここで以下の置き換えを行う。

$$a = (\mathbf{p} - \mathbf{r})^2 \quad (32)$$

$$b = (\mathbf{p} - \mathbf{r})(\mathbf{q} - \mathbf{r}) \quad (33)$$

$$c = (\mathbf{q} - \mathbf{r})^2 \quad (34)$$

$$g = \mathbf{r}(\mathbf{p} - \mathbf{r}) \quad (35)$$

$$h = \mathbf{r}(\mathbf{q} - \mathbf{r}) \quad (36)$$

これにより、(30)、(31) は以下のように表記できる。

$$\begin{bmatrix} a & b \\ b & c \end{bmatrix} \begin{bmatrix} \alpha \\ \beta \end{bmatrix} = - \begin{bmatrix} g \\ h \end{bmatrix} \quad (37)$$

よって、 α, β は以下の式で求まる。

$$\begin{bmatrix} \alpha \\ \beta \end{bmatrix} = \begin{bmatrix} a & b \\ b & c \end{bmatrix}^{-1} \left(- \begin{bmatrix} g \\ h \end{bmatrix} \right) \quad (38)$$

$$= \frac{-1}{\det} \begin{bmatrix} c & -b \\ -b & a \end{bmatrix} \begin{bmatrix} g \\ h \end{bmatrix} \quad (39)$$

$$\det = ac - b^2 \quad (40)$$

なお、 $\det = 0$ では上記解は求まらない。これは、 $\mathbf{p}, \mathbf{q}, \mathbf{r}$ の3点の内2つが一致している場合である。

2.2 orthogonalDirection2()

外積の定義より 推薦を計算する。

2つのベクトル \mathbf{u}, \mathbf{v} について、以下のような外積 \mathbf{w} は、以下の性質を満たす。

$$\mathbf{w} = \mathbf{u} \times \mathbf{v} \quad (41)$$

$$= \begin{bmatrix} u_y v_z - u_z v_y \\ u_z v_x - u_x v_z \\ u_x v_y - u_y v_x \end{bmatrix} \quad (42)$$

$$\mathbf{w} \cdot \mathbf{u} = 0 \quad (43)$$

$$\mathbf{w} \cdot \mathbf{v} = 0 \quad (44)$$

$$|\mathbf{w}| = \mathbf{u}, \mathbf{v} \text{ が張る 三角形の面積} \quad (45)$$

このベクトルの外積を使って、図3のような三角形 PQR に対する垂線 \mathbf{h} は以下のように求めることができる。

$$P : \mathbf{p} = {}^T \begin{bmatrix} p_x, p_y, p_z \end{bmatrix} \quad (46)$$

$$Q : \mathbf{q} = {}^T \begin{bmatrix} q_x, q_y, q_z \end{bmatrix} \quad (47)$$

$$R : \mathbf{r} = {}^T \begin{bmatrix} r_x, r_y, r_z \end{bmatrix} \quad (48)$$

$$\overrightarrow{PQ} = {}^T \begin{bmatrix} q_x - p_x, q_y - p_y, q_z - p_z \end{bmatrix} \quad (49)$$

$$\overrightarrow{QR} = {}^T \begin{bmatrix} r_x - q_x, r_y - q_y, r_z - q_z \end{bmatrix} \quad (50)$$

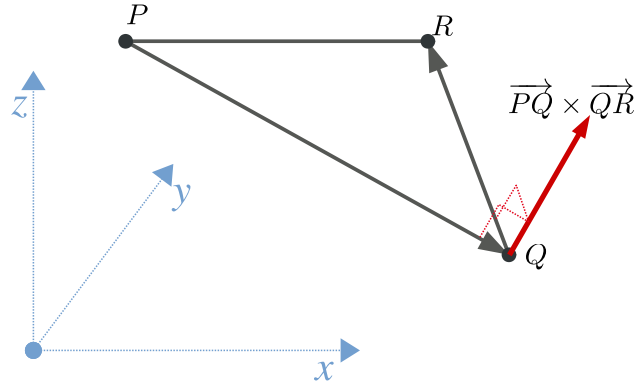


図 3: 三角形と外積による垂線 (法線)

$$\mathbf{h} = \overrightarrow{PQ} \times \overrightarrow{QR} \quad (51)$$

$$= \begin{bmatrix} (q_y - p_y)(r_z - q_z) - (q_z - p_z)(r_y - q_y) \\ (q_z - p_z)(r_x - q_x) - (q_x - p_x)(r_z - q_z) \\ (p_x - p_x)(r_y - q_y) - (q_y - p_y)(r_x - q_x) \end{bmatrix} \quad (52)$$